

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyyu@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>

department/Top/kyouiku-i/kyouikukenkyyu



一年目の決意

氷見市中学校長会 会長

氷見市立南部中学校 校長

稲積 玲子

教員一年目は、ほとんど高岡教育事務所（現西部教育事務所）で過ごした。

授業をもたずに、管内で産休や病休の教員がいたら、その学校に出向いて授業する「定数内産休代員」という条件付きの新採で、5月から事務所の手伝いをするように命じられた。

朝一番、事務所を開けてお湯を沸かし、指導主事の机の上を拭いてからお茶を出した。時々、自分より早く出勤する指導主事がいて、慌てたことがある。日中は、電話の応対や庶務の仕事、来客の接待をした。閉庁時刻の5時半、指導主事の帰宅とともに湯飲みを集めて洗い、床を掃き、鍵をかけて一日が終わった。授業ができないことへの焦りはあったが、事務所でいろいろな方々と会話することはためになったし、お茶くみも掃除も苦にはならなかった。

当時、一番若い教員が職員室ですべき仕事があったり前にできるように、このとき鍛えていただいたと思っている。

10月、新しい管理課長さんが赴任された。風格のある方で、話しかけるのも恐れ多く、緊張して過ごす日が多かった。

11月のある日、いつものように給湯室で湯飲みを洗っていた。湯飲みを重ねて集めてしまい、厚手の大きな湯飲みと薄手の小さな湯飲みが入り込んでいた。すぐに抜けなかったため、大きな湯飲みを支えて小さな方を横に回した瞬間、湯飲みの一つが割れてしまった。割れたのは、大きな湯飲み。高級そうな焼き物で、管理課長さんの湯飲みだった。

「どうしよう」「明日の朝一番に謝らないと」「どうやって謝ろう」「許してもらえたらどうか」「とにかく湯飲みがないといけない」「こんな遅くに新しい湯飲みを準備できるだろうか」など、様々な思いが頭を巡ったが、同じ湯飲みを探しに商店街の瀬戸物店を回ることに決めた。教育事務所を出たのは6時過ぎで、外はもう真っ暗だった。

割れた湯飲みをもって、末広町と御旅屋通りの瀬戸物店を2軒回ったが同じものはなかった。万葉線の線路に沿ってさらに末広町を下り、3軒目の店に着いたときは7時を回っていた。

その店の中程に、ショーケースがあった。よく見ると、高そうな焼き物がいくつか展示されている。よく似た湯飲みがある。朱色の菱形の模様が少し曲がっていて小さかったが、同じ作家が焼いたものに間違いのないと思った。「あつてよかった！」ほっとした気持ちと明日への不安感を胸に、帰路についた。

翌朝、課長さんに湯飲みを割ってしまったことを謝罪し、新しい湯飲みを探しに行ったこと、新しい湯飲みを使っていたきたいという思いを伝えた。厳しい言葉が返ってくると覚悟していたが、課長さんは穏やかな表情で、こう言われた。

「湯飲みはいつか割れるものです。そんなことより、あなたが一生懸命に新しい湯飲みを探そうとした行為に感動しました」

さらに、こう付け加えられた。

「あなたが夜遅くに努力して買ってくれた湯飲みをありがたく使わせていただきます」

この言葉で、謙虚に、誠心誠意努力すること、相手のことを考えて早く行動することを常に心がけて、教員人生を送ろうと決意した。3月の異動発表で「氷見市立北部中学校で力を発揮してください」と励まされ、学校現場での教員人生がスタートした。

お世話になった管理課長さんは、志貴野中学校長、高岡市教育長を歴任された篠島満先生である。

今年の夏休み、校長室の書棚を整理していたら、篠島先生が昭和63年に退職記念として出版された小冊子「遍歴の細道」を偶然見付けた。また篠島先生のお話に触れることができ、幸せを感じている。教員一年目の出会いに感謝したい。

平成28年度 夏季研修会で学びを深める

今年度、本センターでは、「理論に基づいた実践的指導力の向上」をテーマに、今日的な教育課題を踏まえた研修会を企画しました。夏季研修会では、学力向上、生徒指導、道徳教育、幼保小連携教育、外国語活動、学級づくり等の教育課題への対応力を高め、ミドルリーダーと若手教員の育成を目指しました。その研修会的一端をご紹介します。

仲間に学ぶ研修会 7月27日(水)



内地留学等で学んで来られた先生方を講師に、「子供の感情をはぐくむ支援の在り方」「発達障害のある生徒のソーシャルスキルの指導の在り方」について、実践的な演習を交えながら学び合いました。先輩の先生方の体験談や仲間の話に刺激

を受け、「2学期からの子供との接し方に生かしていきたい」「子供のよいところを伸ばしたい」など、今後のやる気につながる研修会でした。

道徳教育研修会 8月3日(水)

演題 今求められる道徳教育—特別な教科 道徳を考える—
講師 金沢工業大学 教授 白木 みどり 先生

次期学習指導要領改訂の方向性を踏まえた道徳科の目標や指導の在り方について研修しました。「特別の教科 道徳がめざすものは『考える道徳』『議論する道徳』への転換である」「道徳は人間の生き方を学ぶとても身近な教科である」と話されました。



幼保小連携教育合同講演会 8月4日(木)

演題 子供の発達を踏まえた幼保小連携の在り方
講師 北海道教育大学 教授 阿部 美穂子 先生

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、子育て支援課と合同で講演会を行いました。園と学校の実情に応じ、段差になるような具体的な事案の解消に向けた取組を、計画的・継続的に実践することが大切であると教えていただきました。



ふるさと学習研修会 8月9日(火)

郷土(氷見)に対する理解を深めるとともに、教材としての活用方法を探るため、新規採用教員と転入教員、小学校の3、4年生担任等が氷見漁港や魚々座、ひみラボ水族館、市立博物館を見学して説明を聞いたり、「氷見の万葉」について講義を受けたりしました。



生徒指導研修会 8月9日(火)

演題 ネットトラブルの現状と望まれる対応
講師 西部教育事務所 主任生活指導主事 畑井 俊信 先生
小学生のスマホの所持率や出会い系サイトに起因する事犯の増加、SNSの利用状況や利用者の心理状態、ネット上での不適切な書き込みの現状等について、分かりやすく解説していただきました。また、演習を通して、ネットトラブルに対する具体的な対応について考えました。



第3回生徒指導研修

教えること、育てること、そして、愛すること

開催日時 8月23日(火) 9:30~12:00
開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール
講師 愛媛大学 教授 平松 義樹 先生



数多くの実践事例と書籍等の紹介による説得力のある講話、そして、映像と音声を織り交ぜた雰囲気づくり等、笑いあり涙ありの感動的で、心に響く講演会となりました。

平松先生は、「一人一人の子供の『いのち』の根っこを育て、守る」ことが大切であり、子供たちの表層的な側面だけを捉える「見る」から、感度のよい眼と聴診(心)器をもって捉え支える「看る」への転換が必要であること、また、学び合う「協働的教師集団」による取組があつてこそ、いじめを未然に防止できることを力説されました。

平松先生は最後に、「子供のために、この学校があり、子供のために私があるのですから、日々『あせらず、あなどらず、あきらめず』に頑張ってください」と、参加した先生方に温かく、力強いエールを贈ってください、多くの先生方が励まされ、元気付けられる講演会でした。

<参加者の声>

- ・子供の見えない部分をしっかりとみて、今なぜその状態にあるのかを見抜く目を持ちたい。子供に対する自分の接し方について考えさせられた。
- ・チーミングを実践し、複数の教師で複数の学級に目を向け、一人一人の子供を大切にしていける学校になるように努力していきたい。

第2回教育セミナー(兼 第3回学力向上研修会)

アクティブ・ラーニングと学級づくり ~特別活動における集団の教育力の活用~

開催日時 8月29日(月) 10:15~12:00
開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール
講師 國學院大学 教授 杉田 洋 先生



「アクティブ・ラーナーを育てる授業改善と特別活動の役割」「学級づくりの中心は、集団の教育力の再構築と活用」「自己決定や合意形成のための話し合い活動の充実でよりよい学級を創る」等の内容で講演をしていただきました。

講演を通して強調されたことは、教師と一人一人の子供との信頼関係(受容と要求の縦糸をつなぐ)をつくるとともに、特別活動の充実で子供同士の支持的な関係(共感と協働の横糸をつなぐ)をつくることの大切さです。また他国に招聘されて教育研究をされる中で、日本式学校教育の強みは、「人を人の中で育てる、人が人を育てる」ことであると力説されました。具体的には、異年齢交流活動の教育力を活かすことや子供が子供に学ぶ機能を活性化することなどです。

<参加者の声>

- ・一人一人の子供たちとの縦糸をつくること、そして共感と協働の横糸をつくること。これが学級づくりなのだ、心にすんと入ったように感じました。
- ・よりよい人間関係をつくっていけるように、今一度自分のクラスの子供たち一人一人を見つめて、2学期からの指導に取り組んでいきたいと思いました。

外国語活動研修会

外国語活動の充実及び外国語教育の今後の方向性

開催日時 8月24日(水) 14:30~16:45
 開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール
 講師 西部教育事務所 指導主事 豊原 正貴 先生



次期学習指導要領改訂(2020年)に向けた「グローバル化に対応した新たな英語教育の目標・内容等」について次のように話されました。

- 【中学校】
 - 授業は英語で行うことを基本とし、内容に踏み込んだ言語活動を重視
 - 目標：身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う
 - 【小学校高学年】○教科型
 - 専科教員の積極的活用
 - 目標：読むことや書くことも含めた初歩的な英語の運用能力を養う
 - 【小学校中学年】○活動型
 - 学級担任を中心に指導
 - 目標：英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験することで、コミュニケーション能力の素地を養う
- (当日資料より)

小・中学生の力作がいっぱい！！ <氷見市児童生徒科学作品展覧会>

開催期間 9月10日(土)～11日(日)
 開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール



今年度の児童生徒科学作品展覧会には、小・中学校から78点(小学校33点、中学校45点)の力作が集まり、およそ330名の来場がありました。身近な現象に「なぜ？」と疑問をもち、粘り強い観察や実験を通して、その疑問を解決している作品や、興味・関心をもった事象に対して、子供らしい視点から追究を重ね、工夫を凝らしてまとめ上げた作品など、素晴らしい作品ばかりでした。

審査の結果、以下の5作品が、富山県科学展覧会に出品されました。

作品名	学校・学年	名前	県科学展
めげせ!!金メダル 紙リンピック 2016	比美乃江小学校 2年	洲崎 鈴佳	創意工夫賞
みなと川はきれいかな? 用水、わき水、川の調査	朝日丘小学校 5年	菊地 玲娃 菊地 暁生	創意工夫賞
セミはいつ鳴くの?	朝日丘小学校 5年	小澤 穂果	研究努力賞
水面上でくらすアメンボの不思議	十二町小学校 6年	藺生 拓海	研究努力賞
水の上を転がる水球の研究	西條中学校 科学部	窪田 泰成 外8名	創意工夫賞 最優秀賞

※ 日本学生科学賞「最優秀賞」を受賞した西條中学校 科学部の作品は、中央審査に出展されます。

「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業講演会 (開催案内)

氷見市出身オリンピック選手 (ハンドボール)

西山 清氏 講演会

「“夢”は“人づくり”」

開催日時 11月10日(木)

13時50分～

開催会場 ふれあいスポーツセンター

参加対象 中学2年生、教員、一般希望者等

氷見市で初めてオリンピックに出場された西山 清氏が、ハンドボールを通して経験されたことや熱い思いを語られます。



写真提供：(株) スポーツイベント